

<感想> 私は、2012年3月6日~3月21日の16日間、ケニア共和国にてNPO法人道普請人の草根の技術協力に参加してまいりました。私は、このスタディツアーにて、道普請人が行っている「土のう」を使った道直しを農村部の現地住民と一緒に進むとともに、現地の村の一般家庭にホームステイを致しました。これらを通して、土木技術者として、住民の方々との関わり方や、それぞれの現場における地理的条件および文化・風習を理解し、現地に適した方法で問題を解決する能力を高めることが出来ました。

その後、農村部から得た知識や歴史的背景を踏まえて、ケニアが抱える様々な問題をナイロビ大学の大学生とディスカッションするため大学を訪問致しました。ディスカッションは政治学、社会学、経済学を学ぶ学生4名と行いました。私たちとナイロビ大学の学生は、ディスカッションの中で多く異なる考え方をしていることが分かりました。

ナイロビ大学の学生の関心は、経済的な格差と、政治での汚職等の問題、ボランティア精神は全くない。大学の授業は主に過去に何が起きたのかを学び、現状で何が起きているかについては禁句である。農村部出身であっても、二度と農村部には帰ろうというつもりはないという。クラブ、サークル活動は無く個人主義者が多い。しかし、政治クラブは、政治家のサポートの元、かなり活発に行われている。これらが、ケニアの政治を良くしない原因の一つである。

以上のような内容について話をしました。私にとって、衝撃的な事ばかりでしたが、現地に赴かなければ決して知る事の出来ない知識でしたので、非常に有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を頂くことができたのは、京土会の助成金のおかげであり、心から感謝申し上げます。